

2013アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名[金沢市立額小学校] 担当教諭名[松本 桃子] (6年3組 33名)

交流相手国[アメリカ]

海外相手国[Orange Grove Middle Magnet School of the Arts] 担当教諭名[Jody Chandler]

■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教 科	単 元 名	時 間 数
	総合的な学習の時間	金沢を知り 日本を知り 世界を知ろう	40

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	地域のお祭り
絵に込めたメッセージ	自分が住んでいる町や国のお祭りについて詳しく調べた後、相手の国に、日本のお祭りの魅力を伝えることを目的に絵を描いた。花火、雪祭り、御輿、山車、節分など、日本特有の祭りについて、アメリカの友達に知ってもらい、その祭りの楽しさを共有しようとした。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<p>絵を描くときにメンバーと相談したり分担したり、協力して完成させようとする協調性が伸びた。</p> <p>相手の国に伝えたいという思いを持って、意欲的に調べたり描いたりすることができた。</p> <p>会ったことも直接話したこともない相手だが、一枚の絵を通して「心一つに一緒に創る」楽しさや喜びを感じることができた。</p>	<p>相手国との連絡がうまくいかず、子どもたちの意欲を継続させることが難しかった。</p> <p>TV会議ができなかったり、手紙や自己紹介VTRの返事が大変遅かったりして、具体的な相手意識を持つことが難しかった。(顔写真が届いたのも、絵を描いた後)</p>

■アートマイルの活動を周りにお知らせしましたか？ 周りの反響はどうでしたか？

担当教諭や子どもたちによる広報	校内・保護者や地域の方からの反響
卒業式で絵を体育館に飾ることができたため、子どもたちの頑張りを多くの人に見ていただくことができた。	5年生から、「すごいな～」「うらやましい～」といった感想を多く聞いた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科
導入	6月	金沢星稜大学から清水先生・学生さんをお呼びして、ワークショップをしてもらう。 日本の祭りについて調べてまとめる。	「もし世界が100人の村だったら」のワークショップを通して、世界の現状に目を向け、世界とつながることに関心を高めることができた。	総合8
情報収集	9月	英語の自己紹介と、英文化した学校紹介と日本のお祭り紹介を、VTRやパワーポイントにまとめて、掲示板やYou Tubeにのせた。	英語で伝えることに最初は緊張していたが、それぞれに工夫があり、意欲的に活動していた。きっと、アメリカからの反応を楽しみにしていたのだと思う。	総合15
テーマ検討	10月 11月	下書きをかいて、掲示板に提案 相手校からは返信なし クラス内や他のクラスからのアドバイスで、デザインを決定	まずはグループに分かれて、自分たちが伝えたいお祭りと、全体の構図の2点を考えさせたところ、どのグループも大変意欲的に取り組み、候補がなかなか絞られなかったほどであった。	総合8
制作	12月	グループごとに分かれて絵を制作	一人ひとりが、楽しそうに描いていた。色1つにしてもグループで話し合い、自分一人ではなく、グループとして満足 of いく作品に仕上げようと意識していた。	総合7
鑑賞	3月	共同制作した絵の鑑賞	アメリカ側がこちらの意図をくみとってデザインしてくれたことに喜んでいて。アメリカの絵から、どんなお祭りがあるのか考えようとしていた。	総合2

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入 (A:特に重視した B:重視した C:あまり重視しなかった)

「成果」先生の手応え (5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	5	全員共通のお祭りと、グループで自由選択のお祭りについて調べることで、今まで目を向けなかった文化に興味を持つことが出来ていたから。
異文化の理解	A	3	言語、文化、教育、食事など、様々なことについて調べる時間をとったが、大統領の顔や国旗を描くのに時間を費やして終わった。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	B	4	英語で3文程度の自己紹介を全員が言えるようになった。竹馬に乗ったり素振りをしたり、個々の工夫も見られた。
情報活用能力 (情報収集・発信)	B	4	インターネットで自国のお祭りや相手国の情報について、自分たちで調べることができていた。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	A	2	相手国の友達の名前・顔、どちらも12月の終わりにやっと知ることができた。手紙の返信も1/3以下で、残念そうだった。
協働する力 (役割分担・協力)	A	5	相手意識があるからか、デザインや配色を考える際にも、これまで以上に話し合いを重ね、納得した上で次に進もうとする姿が見られた。
学習を追究する意欲	C	2	自分から何かをもっと調べようという姿は、全体として見られなかった。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	B	4	日本の代表といえば何か？から始まり、限られたスペースの中でどんな構図にしようか配色にしようか考え、実践していた。
作品を鑑賞する力	C	3	日本の意図をくみとってくれた部分は嬉しそうだったが、時間もなかなかとれず、じっくりと鑑賞はできなかった。